

「釧路湿原自然再生協議会」

第24回 再生普及小委員会

平成26年12月19日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

釧路湿原自然再生協議会
第24回 再生普及小委員会

日時：平成26年12月19日（金）13:30～16:00

場所：釧路地方合同庁舎5階 第1会議室
（釧路市幸町10丁目3番地）

----- 議 事 次 第 -----

- 1, 開会
- 2, 議事
 - 1) 行動計画ワーキンググループの経過報告
 - 2) 環境教育ワーキンググループの経過報告
 - 3) 再生普及行動計画の見直しについて
 - 4) その他
- 3, 閉会

----- 配 布 資 料 -----

- ・ 議事次第
- ・ 再生普及小委員会 委員名簿
- ・ 第24回再生普及小委員会 出席者名簿
- ・ 第24回再生普及小委員会 資料
- ・ 第23回再生普及小委員会ニュースレター
- ・ 意見・要望アンケート用紙

釧路湿原自然再生協議会
再生普及小委員会 委員名簿

計:63名

■個人(24名)

(敬称略、五十音順)

No.	氏名	所属
1	石岡透	
2	金子正美	酪農学園大学 環境システム学部 地域環境学科 教授
3	神戸忠勝	
4	君塚孝一	(有)自然文化創舎 オホーツク知床リサーチワークショップ
5	木村勲	
6	小松繁樹	
7	貞國利夫	
8	清水信彦	
9	白谷和明	平和システム研究所 調査研究員
10	新庄久志	釧路国際ウェットランドセンター主任技術員(環境ファシリテーター)
11	杉澤拓男	
12	高嶋八千代	
13	高橋昭	
14	高橋忠一	
15	竹中康進	
16	橋利器	トラウトフォーラム会員
17	橋治国	
18	鶴間秀典	
19	中村太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
20	蛭田眞一	北海道教育大学釧路校 教授
21	松本文雄	
22	矢吹哲夫	酪農学園大学 環境システム学部 生命環境学科 教授
23	吉村暢彦	北海道大学環境科学院
24	渡部幹雄	

■団体(24名)

(敬称略、五十音順)

No.	団体/機関名	代表者名
1	阿寒国際ツルセンター(グルス)	主任解説員 川瀬 幸
2	NPO法人環境把握推進ネットワーク-PEG	代表 照井 滋晴
3	釧路観光連盟	会長 佐藤 悦夫
4	釧路国際ウェットランドセンター	理事長 蝦名 大也
5	釧路自然保護協会	会長 神田 房行
6	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	代表幹事 山岸 彬
7	釧路湿原国立公園連絡協議会	会長 蝦名 大也
8	釧路シャケの会	会長 小杉 和寛
9	釧路武佐の森の会	会長 大西 英一
10	こどもエコクラブくしろ	近藤 一燈美
11	公益財団法人日本鳥類保護連盟釧路支部	支部長 小柳 慶吾
12	公益財団法人日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	柴田 英美
13	公益財団法人北海道環境財団	理事長 小林 三樹
14	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
15	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事長 百瀬 邦和

No.	団体/機関名	代表者名
16	塘路ネイチャーセンター	センター長 鷺見 祐将
17	独立行政法人 土木研究所寒地土木研究所 水環境保全チーム	上席研究員 平井 康幸
18	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所	理事長 赤松 里香
19	特定非営利活動法人 くしろ・わっと	理事長 小林 友幸
20	特定非営利活動法人 鶴居タンチョウ元亀村	理事 佐藤 吉人
21	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒澤 信道
22	北海道標茶高等学校	校長 生田 仁志
23	北海道プロフェッショナルフィッシングガイド協会	会長 テディ齋藤
24	ボランティアネットワークチャレンジ隊	代表 佐竹 直子

■ オブザーバー(5団体)

(敬称略)

No.	団体/機関名	代表者名
1	釧路商工会議所	会頭 山本 壽福
2	釧路町商工会	会長 中嶋 嘉昭
3	標茶町商工会	会長 田中 進
4	弟子屈町商工会	会長 桐木 茂雄
5	鶴居村商工会	会長 大津 泰則

■ 関係行政機関(10機関)

(敬称略)

No.	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 數土 勉
2	環境省 釧路自然環境事務所	所長 西山 理行
3	林野庁 北海道森林管理局	局長 古久保 英嗣
4	北海道 釧路総合振興局	局長 土栄 正人
5	北海道教育庁 釧路教育局	局長 宇田 賢治
6	釧路市	市長 蝦名 大也
7	釧路町	町長 佐藤 廣高
8	標茶町	町長 池田 裕二
9	弟子屈町	町長 徳永 哲雄
10	鶴居村	村長 大石 正行

「釧路湿原自然再生協議会」

第24回 再生普及小委員会

資 料

平成26年12月19日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

目 次

【再生普及行動計画ワーキンググループの経過報告】

資料1	再生普及行動計画WGの取組み報告		
－1	行動計画の進行管理、活動支援	…	1
－2	情報発信・普及活動の拡充	…	3
－3	自然再生事業の現地見学会及び自然再生活動への参加機会作り	…	4
	・ 『釧路湿原の自然再生に参加しよう！』アンケート結果	…	9
	・ 「ワンダグリーンダ・プロジェクト2014」参加一覧	…	10

【環境教育ワーキンググループの経過報告】

資料2	環境教育ワーキンググループの取組み報告、活動予定		
－1	教科学習での釧路湿原の活用促進を目的とした授業の作成支援	…	13
－2	教育研修講座の実施	…	13
－3	流域圏の小学校、中学校、高等学校を対象としたアンケート調査の実施	…	13

<参考資料>

	これまでの環境教育WG作成・実施内容	…	15
--	--------------------	---	----

【再生普及行動計画の見直しについて】

資料3	釧路湿原自然再生普及行動計画改訂案のポイントと 新たな推進体制等について（案）	…	19
資料4	第3期釧路湿原自然再生普及行動計画（案）	…	25
－1	背景と経緯	…	25
－2	行動計画とは何か	…	27
－3	具体的な取組分野	…	30

<参考資料>

	釧路湿原自然再生協議会構成図（2015年3月現在）	…	34
--	---------------------------	---	----

再生普及行動計画WGの取組み報告

事務局として以下の取組みを実施した。

1 行動計画の進行管理、活動支援

行動計画の進行管理、参加者の活動支援、活性化に向けた取り組みを行う。

■ワンダグリンダ・プロジェクト 2013 活動報告書の作成、配布

■ワンダグリンダ・プロジェクト 2014 の進捗把握、活動支援

- ・イベント、パネル展での紹介
- ・メールニュースでの活動情報発信
- ・活動の場の提供、イベントでの支援

○伊勢志郎氏

「羽ばたく折り鶴を作って釧路湿原をPRしよう！」(5/17) 場所：釧路町公民館

- ・羽ばたく折り鶴講座
- ・釧路湿原航空写真展
- ・環境省こどもパークレンジャーパネル展
- ・航空写真を使用して釧路湿原の自然環境や再生事業について解説



○イオン釧路店チアーズクラブ・イオン釧路昭和店チアーズクラブ

「ニホンザリガニ観察会」(10/19) 場所：達古武湖周辺河川

- ・ニホンザリガニの捕獲体験
- ・その他の魚類や水生生物の捕獲、観察
- ・ウチダザリガニによる釧路湿原への悪影響や現状の解説
- ・達古武自然再生事業の解説



○喜多島麻鈴・ミュージックサロンたじま

「第2回チャリティー釧路湿原フェスティバル」(11/16) 場所：釧路町公民館

- ・コンサートを通じて釧路湿原をPR
- ・募金活動
- ・事務局よりワンダグリнда・プロジェクトの紹介



■ワンダグリнда・プロジェクト 2014 登録証の発行

■ワンダグリнда・プロジェクト普及シール及びポケットティッシュの配布

■フィールドワークショップの実施

第13回フィールドワークショップ

「真夏のミズゴケ湿原に行く」～釧路湿原の不思議ゾーン赤沼を探検しよう！～

【実施日時】 2014年8月12日(火) 9:00～12:30

【実施場所】 赤沼

【参加者数】 14名

【実施内容】 赤沼周辺のミズゴケ湿原散策

【案内人】 新庄久志氏

【アンケート回答(抜粋)】

- ・実際に湿原の中に入って体で体験出来た。高層湿原を理解出来た
- ・高層、低層湿原の違いなど現地で説明して頂きながら学べたのが良かった
- ・川の氾濫や降雨の後の湿原の様子を五感で知る事が出来た
- ・ヤチマナコに入ってすごく楽しかった
- ・湿原に関する知識と経験が大幅にアップした



※次回のフィールドワークショップは2月6日(金)開催予定

2 情報発信・普及活動の拡充

第2期行動計画お重点分野「釧路湿原を知る、楽しむ、学ぶ」を広げて行くため、多様な活動を発信していく。

■メールニュースの配信、掲示

- ・ワンダグリンダの活動紹介などを月2回配信中

■市町村広報誌、新聞などメディアへの情報提供、記事掲載

- ・イベントごとに働きかける

■イベントへの出展、パネル展の開催

○エコフェアくしろ 2014 (6/7)

- ・釧路湿原自然再生事業紹介パネル展
- ・釧路湿原航空写真展
- ・ワンダグリンダ活動紹介
- ・ワンダグリンダ団体ブース

参加団体（個人）：鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ、釧路ボタニカルアートの会、アトリエアリス、伊勢志郎さん、辻野正さん

- ・湿原のミニチュアによる湿原紹介



○釧路生涯学習フェスティバルまなトピア 2014 (11/8～11/9)

- ・釧路湿原自然再生事業紹介パネル展
- ・釧路湿原航空写真展
- ・湿原のミニチュアによる湿原紹介
- ・ペーパークラフト体験（湿原に住む不思議な生き物「やちぼうず」を作ってみよう！）



3 自然再生事業の現地見学会及び自然再生活動への参加機会作り

第2期行動計画の重点分野「自然再生に参加する、行動する」の機会を創設する

■「自然再生に参加する、行動する」の取組み促進

【実施期間】 平成26年7月～平成26年9月

【実施内容】 『釧路湿原の自然再生に参加しよう！』イベントの実施

ワンダグリーンダ・プロジェクトのうち自然再生への具体的な取組みを行っている団体に加え自然再生協議会の各小委員会での市民参加の取組みを一定期間内に集約してPRし市民参加の拡大を図った。

【実施状況】 15イベント中14イベント終了

【実施イベント一覧】

	開催日	参加人数	イベント名	主催
1	7月5日(土)	17名	日本製紙クレインズの選手と一緒に！ タンチョウの冬の食事場所をつくろう	鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ
2	7月6日(日)	9名	来年の植樹に備えた苗づくり	トラストサルン釧路
3	7月13日(日)	18名	みんなで調べる復元河川の環境・2014夏	釧路国際ウェットランドセンター
4	7月27日(日)	18名	外来生物ウチダザリガニの捕獲体験	釧路湿原ボランティアレンジャーの会 &こどもエコクラブしろ
5	8月2日(土)	75名	釧路湿原国立公園クリーンデー	釧路湿原国立公園連絡協議会
6	8月3日(日) 8月4日(月)	22名	達古武の森 朝のお散歩 ～森林再生の森を歩いてみよう！～	森林再生小委員会 (環境省釧路自然環境事務所)
7	8月7日(木)	18名	釧路湿原を再生しよう！ 未利用地を湿原に再生する取組み	湿原再生小委員会 (釧路開発建設部治水課)
8	8月17日(日)	10名	ザリガニウォッチング	釧路湿原国立公園連絡協議会 温根内ビジターセンター
9	8月20日(水)	9名	釧路湿原を再生しよう！ 土砂流入を防ぐ取組	土砂流入小委員会 (釧路建設管理部)
10	8月23日(土)	23名	アウトドア好き集まれin達古武 カヌーでヒシ刈り、自然を再生！	湿原再生小委員会 (環境省釧路湿原自然保護官事務所)
11	未実施		ノロック号で行く！釧路湿原を探検！ オオハンゴンソウ駆除大作戦	NPO 法人環境把握ネットワーク PEG
12	9月6日(土)	20名	みんなで調べる復元河川の環境・2014秋	釧路国際ウェットランドセンター
13	9月24日(水)	17名	釧路湿原を再生しよう！ 直線河道を蛇行河川に戻す取組み	旧川復元小委員会 (釧路開発建設部治水課)
14	9月上旬～中旬	13名	カヌー-DE清掃 in 達古武湖	環境コンサルタント株式会社 &釧路町達古武オートキャンプ場
15	7月27日(日) 8月9日(土) 9月7日(日)		湿原の恩恵を受けて生まれた 「咲くサクッキー」の販売	釧路短期大学
イベント合計数:15件(内1件未実施)／参加者計:269名				

釧路湿原には“楽しい”がいっぱい!

釧路湿原の自然再生に

参加しよう!

これらの取り組みは全て釧路湿原の自然再生です。これを機会に釧路湿原へ出かけませんか。 **詳しい内容は ワンダグリンド** [検索](#)

7/5 (土) 9:00~12:30

日本製紙クレインズの選手と一緒に!
タンチョウの冬の食卓場所をつくらう

タンチョウが冬の間に自然の餌が採れるように水辺の枝を切ります。

申込み期間/～6月30日
[問い合わせ] 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ
☎0154-64-2820

7/6 (日) 9:30~12:00

**茶年の植樹に
備えた苗づくり**

自然林の再生を日増して茶年に植樹する苗を作ります。

申込み/不要
[問い合わせ] NPO法人
トラストサルン釧路
☎0154-44-5022

7/13 (日) 8:30~14:30

**みんなで調べる
釧路川周辺の環境・2014夏**

釧路川周辺の旅行便路で水生生物や植物、河岸の地質などを調べます。

申込み期間/～6月20日
[問い合わせ] 釧路環境ウエットランドセンター
☎0154-31-4594

7/27 (日) 10:00~12:00

**外来生物
ウチダザリガ三の調査体験**

釧路湿原に影響を与えている外来生物ウチダザリガ三の調査と計測、試食も行います。

申込み期間/7月1日～7月23日
[問い合わせ] 釧路環境ウエットランドセンター
☎0154-66-2346 (事務課)

7/27 (日) 8/9 (土) 9/7 (日)

**湿原の恩恵を受けよう! まれた
【豚クサツッキー】の販売**

ANAクラウンプラザホテル釧路と連携し、湿原をとりまく畜産群を使用した、学生産物の「豚クサツッキー」を販売します。

申込み/不要
[問い合わせ] 釧路短期大学
☎0154-68-5124 (産産)

8/2 (土) 10:00~11:30

**釧路湿原国立公園
クリーンデー**

結尾展望台周辺でゴミ拾いを行います。

申込み期間/7月14日～8月1日
[問い合わせ] 釧路湿原国立公園
道地協議会事務局
☎0154-31-4594

8/3 (日) 7:00~8:30

8/4 (月) 道古武湖の自然再生
～森林再生の森を歩いてみよう!～

早朝の道古武湖の森を歩いて、森林再生の自然をクイズ形式で学びます。そこにいる動物の調査も行います。

申込み期間/8/3まで
[問い合わせ] 釧路環境ウエットランドセンター
☎0154-40-4446
[問い合わせ] 森林再生の森を歩いてみよう!プロジェクト
☎0154-32-7500

8/7 (木) 10:00~12:00

**釧路湿原を再生しよう!
未利用地を湿原に再生する取組み**

鶴居村で実施中の道古武湖の環境改善とヨシ移植作業を行います。

申込み期間/6月30日～7月18日
[問い合わせ] 道古武湖再生小委員会
(釧路環境ウエットランドセンター)
☎0154-24-7250

8/17 (日) 10:00~12:00

**ザリガニ
ウォッチング**

ウチダザリガニ釣りをしてながら外来種観察を行います。

申込み期間/7月17日～
[問い合わせ] 釧路環境ウエットランドセンター
道地協議会事務局
☎0154-66-2323

8/20 (水) 9:00~15:00

**釧路湿原を再生しよう!
土砂流入を防ぐ取組み**

久帯川上流部から道古武湖流入部までを移動しながら、湿原に流れ込む土砂を調査します。

申込み期間/7月19日～8月8日
[問い合わせ] 土砂流入小委員会
(釧路環境ウエットランドセンター)
☎0154-23-9183

8/23 (土) 9:00~16:00

**アウトドア好き集まれ! in 道古武湖
カヌーでヒシ釣り、自然を再生!**

道古武湖のカヌーに乗って水上をめぐりながらヒシ釣りをします。道古武湖の自然再生の取組みについて学びます。

申込み期間/7月22日～8月8日
[問い合わせ] 道古武湖再生小委員会
(釧路環境ウエットランドセンター)
☎0154-66-2346

8/中旬

**ノボコウで行く! 釧路湿原を保護!
オオハシゴシの観察大作戦!**

釧路湿原の自然再生をしながら外来生物オオハシゴシの観察体験を行います。(※JR乗換)

[問い合わせ] NPO法人
釧路環境ネットワークPEG
☎0154-66-9184

9/6 (土) 8:15~15:30

**みんなで調べる
釧路川周辺の環境・2014秋**

カヌーで釧路川を下りながら旅行便路と自然の環境を比べてみます。

申込み期間/7月25日～8月20日
[問い合わせ] 釧路環境ウエットランドセンター
☎0154-31-4594

9/上旬～中旬 10:00~12:00

**カヌー・DE溝掘
in 道古武湖**

カヌーで乗り、自然を楽しみながら道古武湖の溝掘を行います。

[問い合わせ] 釧路環境ウエットランドセンター
☎0154-40-2331

9/24 (水) 9:00~13:00

**釧路湿原を再生しよう!
直轄河川を釧路川に繋ぐ取組み**

茅田にある直轄は行けない管理道路を道古武湖に繋ぎ、旧川復元の場所を調査し効果を調査します。

申込み期間/8月18日～9月5日
[問い合わせ] 日川復元小委員会
(釧路環境ウエットランドセンター)
☎0154-24-7250

●参加費、保険料、JR運賃など費用がかかるものがあります。
●定員があるものもあります。お早目にお申込み下さい。
●内容や時間など変更になる場合があります。各団体へお問い合わせ下さい。

〈全体についての問い合わせは〉
釧路湿原自然再生協議会 再生普及行動計画オフィス
〒084-0922 釧路市北斗2-2101 釧路湿原野生生物保護センター内
☎0154-56-4646 メール wanda@heco-spc.or.jp

「みんなでできる自然再生!」

貴重で素晴らしい自然が多く残されている日本最大の湿原「釧路湿原」は近年、湿原の減少や乾燥化など自然環境の急激な変化が現れています。そこで過去に失われた自然をもとの姿に取り戻そうと釧路湿原の自然再生が行われています。自然再生は行政が行うものから市民団体が行うものなど幅広い取組みがあります。

今回は皆さんの参加できる自然再生「釧路湿原自然再生協議会の各小委員会」と「ワンダグリンド・プロジェクト」の取組みからご紹介します。

■各小委員会主催イベント

○達古武森林再生事業現場見学会

【実施日時】平成26年8月3日（日）、4日（月） 7:00～8:30

【実施場所】達古武

【対象】達古武オートキャンプ場宿泊者

【参加者数】22名

【実施内容】森林再生現場を歩き、達古武の森に関するクイズを出題しながら自然林と人工林の違い等について紹介。地表性昆虫の調査

【主催】森林再生小委員会（環境省釧路自然環境事務所）

【アンケート回答（抜粋）】

- ・普段は知る事の出来ない生き物の秘密を知れた
- ・普段見ている森の中で色々な植物、生き物が生息している事を知れた
- ・クイズが楽しかった
- ・沢山のの人に経験してもらえるようにして頂きたい
- ・釧路湿原は大切なものと思った



○下幌呂湿原再生事業現場見学会

【実施日時】平成26年8月7日（木）10:00～12:00

【実施場所】下幌呂

【対象】一般

【参加者数】18名

【実施内容】「幌呂地区湿原再生」箇所の見学と、湿原を代表する植物であるヨシの移植体験

【主催】湿原再生小委員会（釧路開発建設部治水課）

【アンケート回答（抜粋）】

- ・泥炭地や植生について学び再生が必要だと解った
- ・湿原再生の仕組みが解った。自分も参加した実感があつた
- ・湿原の中の様子を色々知る事が出来た
- ・子供に学んでもらう事が次世代の環境保全につながると考える
- ・ヨシの植え込みをもっとやりたい



○久著呂川土砂流入事業現場見学会

【実施日時】平成26年8月20日（木）9：00～15：00

【実施場所】久著呂川上流部から湿原流入部

【対 象】一般

【参加者数】11名

【実施内容】久著呂川流域を上流、中流、下流の順で巡るツアー。上流域では景観を楽しんで頂き、中流下流域ではそれぞれ現状の調査や取り組みの確認を行った。

【主 催】土砂流入小委員会（釧路建設管理部治水課）

【アンケート回答（抜粋）】

- ・現場を見ながら説明を受ける事で理解が早まったし、日常では出来ない体験もさせて頂きとても楽しかった
- ・天候に恵まれず上流のパノラマは見られなかったが各スタッフの説明等非常に良かった
- ・具体的な話を聞く事が出来たので大変良かった
- ・いくらかは知っていたつもりだったが改めて確認出来た
- ・保全、保護という言葉をよく聞くが実際にどんな事が行われているか知る良い機会となった。特に土砂流入という今までない視点で釧路湿原を考える良い機会となった



○達古武湖湿原再生事業現場見学会

【実施日時】平成26年8月23日（土）9：00～16：00

【実施場所】達古武湖

【対 象】独身男女

【参加者数】23名

【実施内容】カヌーに乗ってヒシの刈り取体験と達古武周辺を散策しながらの写真講座

【主 催】湿原再生小委員会（環境省釧路自然環境事務所）

【アンケート回答（抜粋）】

- ・湿原は上から見るのではなく同じ目線に立たないと解らない事だらけと思った
- ・自然再生に参加する事で自然の状態を知れた
- ・ヒシの繁殖ぶりに驚いた
- ・初めてヒシを知る事が出来勉強になった
- ・天候も良くヒシ刈り、散策共に十分楽しめた



○茅沼旧川復元現場見学会

【実施日時】平成 26 年 9 月 26 日（金）9：00～13：00

【実施場所】茅沼

【対 象】一般

【参加者数】17 名

【実施内容】釧路川（下オソベツ樋門～茅沼カヌーポート）をEボートで下りながら事業説明等を行い、湿原らしい環境が戻りつつある蛇行復元区間を見て頂いた

【主 催】旧川復元小委員会（釧路開発建設部治水課）

【アンケート回答（抜粋）】

- ・湿原の現状など旧川の再生の効果が良く理解出来た
- ・パネルや資料による説明が解かり易かった
- ・これをきっかけに関心が高まる人も多いと思う
- ・川の中から見る湿原の風景は初めてなので感激した
- ・復元工事は前から知っていたがこんな形で実感出来て良かった



『釧路湿原の自然再生に参加しよう！』アンケート結果

対象イベント数:13件 / 対象人数:269件

■今日の活動のご感想をお聞かせ下さい

回答件数:269件

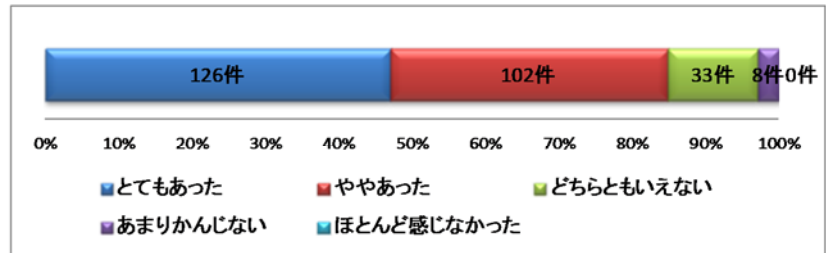
とても満足	183件
やや満足	65件
どちらともいえない	13件
やや不満	8件
とても不満	0件



■今日の活動が自然再生につながったという実感がありますか？

回答件数:269件

とてもあった	126件
ややあった	102件
どちらともいえない	33件
あまりかんじない	8件
ほとんど感じなかった	0件



■釧路湿原の保全や再生に今後とも関わって行きたいと思いませんか？

回答件数:237件

とても思う	167件
やや思う	62件
どちらともいえない	8件
あまり思わない	0件
まったく思わない	0件



■今後どのような行事があったら参加したいと思いませんか？(抜粋)

- ・カヌーで湿原散策(複数回答有)
- ・普通個人では行けない様な場所に行ける企画(複数回答有)
- ・ゴミ拾い(複数回答有)
- ・初心者入門の現地見学会。平日参加は難しいので休日に実施して欲しい
- ・キタサンショウウオの観察会
- ・達古武湖のヒシ刈り
- ・屈斜路湖～岩保木まで川下り
- ・寒中トレッキング
- ・体験型のイベント

■その他ご意見をお聞かせ下さい(抜粋)

- ・参加者の年齢層が若くなる工夫が必要
- ・活動をもっと沢山のの人に知ってもらいたい
- ・ゴミ袋を持参してゴミ拾いをしてから観察したい
- ・他のイベントについても知りたかった
- ・釧路にいて湿原の良さを全く知らな過ぎた
- ・もっと多くの人に釧路湿原の事を知ってもらえる様広報活動に力を入れて欲しい
- ・偶然知って参加したが短い時間でも湿原に貢献出来充実した時間を過ごせた

「ワンダグリンド・プロジェクト 2014」参加一覧

1 取組み数について

2014 年度の取組み数は以下のとおり。

・総数：57 団体（個人）／79 取組み（協議会含む）

2 「ワンダグリンド・プロジェクト 2014」応募状況（一覧）

NO	氏名・団体名	取組み概要
1	愛国幸恵町内会	釧路湿原や町内会周辺の身近な自然の写真を町内会にて回覧します
2	アトリエ「アリス」	釧路湿原などの自然を含む釧路地域の素晴らしさを描くことによってアピールする
3	アトリエ「アリス」	釧路に自生する植物を使ったアート作品の制作と発表
4	アトリエ「アリス」	釧路川周辺の清掃活動を実施します
5	イオン釧路店チアーズクラブ	環境学習
6	イオン釧路昭和店チアーズクラブ	地域と自然環境について学んでいます
7	伊勢 志郎	釧路湿原国立公園内の施設に来園記念の折鶴を提供しています。また、たんちよう釧路空港や丹頂鶴関連の施設にも提供しています。
8	一般財団法人釧路市民文化振興財団 (釧路市生涯学習センター)	～いきいき女性講座～ 温根内のミズゴケ湿原の散策と鶴居村ふるさと情報館の見学 (湿原に触れ、湿原について学ぶ)
9	一般財団法人釧路市民文化振興財団 (釧路市生涯学習センター)	～まなぼつとシニア講座～ 釧路湿原(温根内木道)散策と湿原美術館の鑑賞 (湿原に触れ、湿原について学ぶ)
10	一般財団法人釧路市民文化振興財団 (釧路市生涯学習センター)	～ふるさと講座～ 湿原ホテル講座 釧路湿原の夜の隠れた風物詩を探ろう (温根内木道にてホテル観察)
11	一般財団法人釧路市民文化振興財団 (釧路市生涯学習センター)	～まなぼつとわくわく体験隊～ 森とあそぼう 2014(達古武で自然再生を考える調査体験)
12	一般財団法人釧路市民文化振興財団 (釧路市生涯学習センター)	～釧路学教養講座～ 釧路湿原を訪ねて キラコタン岬と自然再生地 (湿原に触れ、湿原について学ぶ)
13	(株)FMくしろ	放送を通じて、湿原にまつわる四季折々の情報を発信します
14	お菓子司 二幸	「湿原まんじゅう」を販売します
15	カヌープロ	カヌーを通じ自然の素晴らしさや釧路湿原の大切さを伝えます
16	川口 秀人	湿原の様子を写真に収め、カレンダーにして掲示します
17	環境コンサルタント株式会社	達古武湖をカヌー清掃します
18	環境省釧路自然環境事務所	自然再生事業を行っている達古武湖にて、市民体験調査会を行います
19	(NPO)環境把握推進ネットワーク～PEG	釧路湿原に生息する希少動物や外来動植物に関する、学習会や講演会の実施
20	喜多島 麻鈴	コンサートを通じて湿原をPRします
21	釧路国際ウェットランドセンター	ホームページ、ニュースレター等による釧路湿原の情報発信(日本語・英語)
22	釧路国際ウェットランドセンター	湿地・生物多様性に係わる途上国の行政官等を対象とした湿地保全やワイズユースに関する研修を実施(JICAより委託)
23	釧路国際ウェットランドセンター	釧路川蛇行復元現場周辺の環境調査を地域の人々と一緒に行います

24	釧路自然解説員	「自然再生解説員」により釧路湿原や自然再生事業の取り組みを細岡展望台を訪れる観光客を対象にわかりやすく解説します
25	釧路湿原 MTB クラブ	釧路湿原周辺の林道ツーリングを行う
26	釧路湿原川レンジャー	釧路湿原や釧路川の観察活動および環境学習を通じて良好な河川環境の維持に務めます
27	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	クリーンウォークの実施
28	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	ウチダザリガニ駆除調査
29	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	温根内木道定点解説
30	釧路湿原国立公園連絡協議会	釧路湿原に関する情報を自然情報誌、ガイドマップ、ホームページなどで提供します
31	釧路湿原国立公園連絡協議会	温根内ビジターセンターと塘路湖エコミュージアムセンターで自然ふれあい行事を実施します。また来訪者に自然解説や情報提供を行います
32	釧路湿原国立公園連絡協議会	釧路湿原こどもレンジャー活動を実施します
33	釧路湿原国立公園連絡協議会	釧路湿原国立公園クリーンデーを実施します
34	釧路湿原自然再生協議会	釧路湿原自然再生協議会や各委員会の情報を発信します(会議公開、HP、ニュースレター発行)
35	釧路湿原自然再生協議会	学習会や講演会などを行います
36	釧路湿原自然再生協議会	市民参加の見学会を実施します
37	釧路湿原自然再生協議会	パネル展などを実施します
38	釧路湿原自然再生協議会	視察・研修などを受入れます
39	釧路湿原自然再生協議会	自然再生に関わる資料を発刊します
40	釧路湿原全国車いすマラソン大会実行委員会	釧路湿原全国車いすマラソン大会を開催します
41	釧路湿原マラソン実行委員会	釧路湿原マラソンを通じて湿原の美しさを道内外から参加される方々に伝える事
42	釧路シャケの会	シャケの稚魚の里親募集と放流式を実施します
43	釧路短期大学	湿原をとりまく地域食材を使用した学生考案の「咲くサクッキー」を釧路全日空ホテルと連携して販売し湿原自然再生に還元します
44	釧路駐屯地曹友会	①細岡展望台整備ボランティアの実施、カヌー教室の実施
45	釧路走ろう会	釧路湿原内などで開催される大会や練習会に参加し楽しく走っています
46	釧路ボタニカルアートの会	釧路湿原の植物を描きます
47	(株)釧路マーシュ&リバー	釧路川でのカヌーツーリングや湿原散策をガイドしながら釧路湿原の魅力を全国、全世界の皆さんへ発信して行きます
48	(NPO)釧路湿原やちの会	湿原道路の清掃を予定
49	こどもエコクラブくしろ	釧路湿原における特定外来生物の調査・防除活動
50	小荷田 行男	釧路湿原とその周辺域の植物生態・自然史・鳥類生態の調査研究
51	木幡 弥乃莉	ワンダグリンダ☆ニュースのイラスト提供等
52	さとぼん	ホームページによる釧路湿原の魅力や歩き方に関する情報発信
53	さとぼん	旅を通して自然の美しさや大切さを自然に感じられるような釧路湿原の情報発信
54	沢田建設株式会社	釧路湿原近郊の清掃活動(ごみ拾い)をします
55	品田 忠	木の枝の作品作りや展示、木工教室を通し湿原からの水の大切さを伝えます

56	市立釧路図書館 指定管理者 株式会社図書館流通センター	釧路湿原に関する情報提供及び、関連講座や展示を通じた湿原の紹介をします
57	シルバーシティときわ台ヒルズ	釧路湿原を学ぶ自然文化講座を実施します
58	太平洋総合コンサルタント株式会社	標茶高校における体験型の環境教育の実施(野外での水質調査、生物調査を通して身近な環境を楽しみながら学ぶ)
59	タクツパ(ペンネーム)	道東の自然や地名をアイヌ語で紹介します
60	竹中 康進	「羽幌みんなで作る自然空間協議会」によるピオトープづくりの取り組みを紹介します
61	橘 治国	釧路湿原の水環境保全
62	タンチョウコミュニティ	タンチョウのえさづくりプロジェクト
63	(NPO)タンチョウ保護研究グループ	タンチョウの保護に関する教育普及活動を行います
64	辻野 正	ペーパークラフトで釧路湿原などの生き物を紹介します
65	(NPO)トラストサルン釧路	ナショナルトラスト地の環境保全作業にボランティアの方と共に取組み、湿原やトラスト地の観察会を行います
66	(株)日専連釧路	「日専連釧路フィッシャーマンズカード」利用額の一部を釧路湿原国立公園連絡協議会に寄付します
67	西村 孝広	釣りの自警活動の一環として釣り場周辺の清掃活動を行います
68	西村 孝広	オオハンゴンソウの駆除活動を行います
69	(公財)日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	タンチョウ・ネイチャーズガイド(TTG)講習会の開催
70	(公財)日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	タンチョウの冬季自然採食地を守ろう
71	ハートンツリー	ハーブを使った石鹸、化粧水、クリーム作り講習会、ガーデニング講習会を実施します
72	ボーイスカウト釧路第6団カブ隊	自然観察や自然体験を実施します
73	北海道阿寒高等学校	「地域巡検」を実施し、湿原や釧路の自然の大切さを体験させています
74	(NPO)北海道フィッシャーズ協会	釣りをとおして釧路川・湿原を知っていただく活動
75	ミュージックサロン・タジマ	カラオケ発表会を通して湿原のPRや募金活動を行う
76	酪農学園大学 環境地球科学研究室	釧路湿原における物質循環についての研究
77	林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター	シラルト湖上流の立枯れ被害にあった森林で市民参加型の自然再生事業を行います
78	林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター	自然再生事業地の広葉樹の種子から育成した苗木を3年程度預かって育てて頂いています
79	リンク・リング	野生生物へのエサやりの是非を配布するカードを通して考えてもらい、人と動物・自然のかかわりについて考える機会を持ってもらう
57 団体・個人 / 79 取組み(協議会含む)		

環境教育ワーキンググループの取組み報告、活動予定

1 教科学習での釧路湿原の活用促進を目的とした授業の作成支援

北海道教育大学釧路校の境智洋准教授と連携し、釧路湿原を題材とした単元指導計画の作成、実践を行った。環境教育ワーキンググループでは、釧路湿原に関する資料や情報の提供、協同での現地取材等の作成支援を行った。実践の概要は次のとおり。

- ・対象学年：小学校 6 年生
- ・該当単元：理科 土地のつくりと変化
- ・該當時数：8 時間
- ・実践状況：北海道教育大学附属釧路小学校（5 月から 6 月中の 8 時間）
鶴居村立鶴居小学校（12 月 19 日 2 時間（予定））

今後、単元指導計画、各時数の指導案をホームページに掲載し、各学校に案内を行うとともに、教員研修講座で授業内容の紹介等を行い、活用促進を行っていく。

2 教員研修講座の実施

釧路教育研究センターと共催して、理科や社会科の視点からフィールドワークを主体とした教員研修講座を実施した。

○体感！釧路湿原～理科と社会の視点から

- 実施日時：2014 年 6 月 26 日（木）9 時 30 分～16 時 00 分
 実施場所：鶴居村下久著呂
 参加者数：12 名
 主な内容：講話「タンチョウの生息環境とタンチョウをとりまく環境」
 「住民にもタンチョウにも暮らしやすい地域社会を目指して」
 体験「自然河川（久著呂川、渡辺川）でのタンチョウの餌資源の観察」
 活動「デントコーン畑の食害実態の把握、農家さんからの話」
 講師：音成 邦仁 氏（タンチョウコミュニティ代表）
 共催：釧路教育研究センター

今後、2 月 14 日に、北海道教育大学境准教授、市町村教育委員会等の協力を得た、次項の公募講座を実施する予定としている。

○体感！釧路湿原～授業での活用を考える

- 実施日時 : 2015年2月14日(土) 9時30分～15時30分
実施場所 : 鶴居村温根内、中久著呂
参加者数 : 釧路管内の小学校、中学校教員15名程度を予定
主な内容 : 釧路湿原周辺の地層や河川の侵食箇所の観察
北海道教育大学附属釧路小学校での実践授業
教科学習での釧路湿原の活用に向けた意見交換
講師 : 境 智洋氏(北海道教育大学 釧路校 准教授)

3 流域圏の小学校、中学校、高等学校を対象としたアンケート調査の実施

学校での総合的な学習の時間における取り組みテーマ、釧路湿原や釧路川を題材とした学習の実施状況、環境教育WGにおいて作成した資料等の活用状況等を把握する目的から、市町村教育委員会、北海道教育庁釧路教育局の協力を得て、各学校にアンケート調査を依頼している。1月中旬までの回収を予定しており、とりまとめ後、今後の釧路湿原の活用促進に向けた資料として活用していくこととしている。

1 実践事例集（冊子）『きづく わかる まもる 釧路湿原』

2008年12月作成後、流域5市町村の小学校、中学校、高等学校に配布

《主な掲載内容》

- ・小学校・中学校における実践8事例
- ・協力団体・受け入れ機関（16主体）、施設（10施設）における対応内容・連携事例



2 環境教育ワーキンググループ ホームページ『きづく わかる まもる 釧路湿原』

2009年3月より公開し、教育委員会等の協力を得ながら各学校へ案内。

ホームページアドレス：kushiro-ee.jp

《主な掲載内容》

- ・釧路湿原を題材とした学習資料：5つのテーマの学習資料（写真、動画、解説文等）を掲載
- ・教員研修講座：2009年から実施した講座の詳細な内容を掲載
- ・協力団体・受け入れ機関の情報：18団体における対応可能な内容を掲載
- ・受け入れ施設の情報：10施設における対応可能な内容を掲載
- ・小学校、中学校における実践事例：14の実践事例の詳細な内容を掲載

きづく わかる まもる 釧路湿原
～学校と地域をつなぐ環境教育ガイド～

釧路湿原を題材とした学習資料

教員研修講座

協力団体・受け入れ機関の情報

受け入れ施設の情報

小学校・中学校における実践事例

資料ダウンロード

はじめに

環境教育ワーキンググループとは

問い合わせ

***** 新着情報 *****

- ・2014年3月28日
学習資料コンテンツを追加
- ・2014年3月26日
第12回、第13回環境教育WGの情報を追加
教員研修講座実施内容追加
- ・2013年7月29日
教員研修講座実施内容追加
- ・2013年3月27日
学習資料コンテンツ公開
- ・2013年3月15日
教員研修講座実施内容追加
- ・2013年2月25日
第11回環境教育WGの情報を追加

釧路湿原
自然再生センター
環境省 釧路湿原自然再生プロジェクト
湿原データセンター
釧路湿原の自然再生
釧路湿原国立公園
National Parks of Japan
釧路湿原国立公園

釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会の元に設置された環境教育ワーキンググループ(事務局:環境省釧路自然環境事務所)では、学校における釧路湿原を題材とした環境学習の推進方を検討し、具体的なアクションを起こしていくこととしており、これまでも釧路管内の学校における環境教育や湿原を題材とした学習の調査、実践校および学校と連携可能な施設や団体の情報収集と情報発信、教員対象の研修講座等を行ってきました。

本サイトは、これらの活動の一環として、学校の先生や地域の企業・NPO・施設等が釧路湿原流域における湿原を題材とした環境教育に取り組む際の指図書となることを目指して、2009年3月に作成されました。

2013年3月には、理科や社会科などの教科学習において、地元の資源である釧路湿原に関する内容を取り入れていただくことで、釧路湿原を見学し身近に感じてもらうことを目指し、釧路湿原に関する学習資料コンテンツを追加しました。学校における実践事例や受入施設等の情報、教員研修講座の内容等と合わせて、釧路湿原を題材とした学習に活用ください。

釧路湿原を題材とした学習資料

釧路湿原を元案に身近に感じてもらう目的から、教科書で採用されている教材に対応した、釧路湿原に関する学習資料をWEBサイトに取りまとめました。

3 釧路湿原を題材とした学習資料

教育委員会、社会教育施設、教員等の協力を得て作成し、2012年3月に環境教育ワーキンググループホームページ内に公開。教育委員会等の協力を得て、各学校、教育研究会、教育委員会主催教員研修等、様々な機会を活用して教員に案内。

《主な掲載内容》

- ・ 釧路湿原および周辺の地層
- ・ 釧路湿原に生息する生き物の食物連鎖
- ・ 流れる水のはたらき～釧路川
- ・ 塘路湖で行われている育てる漁業
- ・ 湿原と酪農～人の暮らしと自然との接点



きづく わかる まもる

釧路湿原

～学校と地域をつなぐ環境教育ガイド～

釧路湿原

TOPへ

釧路湿原を題材とした学習資料

教員研修講座

協力団体・受け入れ機関の情報

受け入れ施設の情報

小学校・中学校における実践事例

資料ダウンロード

はじめに

環境教育ワーキンググループとは

問い合わせ

釧路湿原を題材としてとりまとめた学習資料

環境教育ワーキンググループでは、釧路湿原を現場に身近に感じてもらう目的から、教科書で採用されている教材に対応して、釧路湿原において関係する資料のとりまとめを進めています。教科書での学習に合わせて、教材教材として、ご利用ください。

◆ 取りまとめた学習資料一覧

- ✿ 釧路湿原および周辺の地層

教科書で紹介している「水のはたらきでできた地層」を中心に、釧路湿原や周辺の丘陵地、海岸部で見られる地層を紹介しています。
- ✿ 釧路湿原に生息する生き物の食物連鎖

釧路湿原の食物連鎖を表すイラスト、生き物のトピック、写真を掲載しています。釧路湿原に様々な生き物が生んでいること、それらは食べる食べられるの関係で複雑につながっていることを、知ってもらいきっかけになればと考えています。
- ✿ 流れる水のはたらき～釧路川

釧路湿原を流れる釧路川をテーマに、流れる水のはたらきによる侵食や堆積の様子、上流から下流までの川の変化などを写真や動画で紹介しています。今後は、釧路川に流れ込む様々な河川についても同様に掲載していく予定です。

◆ その他・動画、写真ライブラリーはこちら
- ✿ 塘路湖で行われている育てる漁業

塘路湖(標茶町)で行われてきたワカサギの孵化増殖事業について紹介しています。豊かな自然環境を守ることが、水産資源を守ることにつながるという漁業組合長のお話をトピックごとにまとめて紹介しています。
- ✿ 湿原と酪農～人の暮らしと自然との接点

鶴居村の一戸の酪農家にお話しいただいた内容を中心に、仕事の概要や苦労してきたこと、野生生物が及ぼす被害、湿原や野生生物の保全に対する思いなどをトピックごとにまとめて紹介しています。

17

4 教員研修講座 体感！釧路湿原～理科と社会の視点から

釧路教育研究センターの協力を得て、2009年より実施しており、これまで全10回開催。現在、釧路教育研究センターとの共催講座1回、公募講座1回の年2回実施してきた。教育委員会、参加教員からの評価は高く、参加教員にリピーターも多い。

体感！釧路湿原～理科と社会の視点から

詳細をダウンロード >> PDFファイル

- ◆ 周辺の環境が育んだ私たちの祖先の暮らし ～北海道の先史文化、細岡周辺の古地形と自然環境、遺跡の見学・レクチャー、環境への順応
- ◆ 達古武地域の再生事業説明(湖の環境変化、再生事業内容等)
- ◆ ヒシの植物としての仕組み・生活史解説、人の生活との関わり
- ◆ カヌーを使った活動(ヒシ繁茂状況観察、ヒシ刈り取り体験等)
- ◆ ヒシの調理体験、試食
- ◆ 教科単元の学習素材としての可能性についてワークショップ、ふりかえり



- >> 参加者 釧路市内の小学校・中学校教員19名
- >> 講師 坪岡 始 氏(標茶町郷土館 学芸員)
牛崎 方恵 氏(糖路湖エコミュージアムセンター 指導員)
- >> 内容 10:00 細岡ピシターズラウンジ駐車場集合 オリエンテーション
10:06 午前プログラム(周辺の環境が育んだ私達の祖先の暮らし)開始
11:34 達古武湖オートキャンプ場へ移動・昼食
12:58 達古武地域の概要、環境変化、事業地の説明
13:16 ヒシに係る講話・カヌーによるヒシ取り(2班に分かれて活動)
14:34 ヒシの調理・試食
15:05 ふりかえり
15:50 解散

■13-16-12-46 船手登土原：ヒシについてのレクチャー (糖路湖エコミュージアムセンター事務局)

ヒシは北海道から九州、東南アジアにかけて広く分布する1年の水草で、釧路湿原ではここ達古武の池、塘路、シラウトロ、赤沼等で見られる。アイヌ語では「ベカンベ」「ベカンベ」「ベカンベ」等と呼ばれ、「水の上にある実」の意。湿原の由来となった植物であり、人との生活の関わりでは、武器としての櫂や篙、武器船に見る櫂、三差のマツなどが、舟の季節としては重宝にされる。



アイヌは船の櫂や篙として利用していた。中国でも使われており、漢方薬として医薬品にも使われる。かつて釧路湿原では「ベカンベ祭り」が行われていたが、植物を祭る行事は世界的にも珍らしい。達古武のヒシは、春秋に増えるが、ヒシを食べることで知られている。このあたりでは未開拓で見られ、このシラウトロでは200羽が観察された。ヒシは、昔は対策でもあり、湖に濁るものをぶら下げ、押っ飛ばすようにしていた。

ヒシまつりから伝説として、配付資料にある「まじりもの伝説」がある。これを参加者にも伝えて新芝居で見てみたい。

■13-16-12-25 船手カヌー

湖原のヒシをカヌーで取りに行くプログラムを説明し、カヌーの操作、注意事項を説明したうえで、3人ずつ4艇で出立した。湖原はヒシではおぼつかくされており、カヌー通行用に切り開かれた水路を300～400mほど進んだところで各自ヒシを採取し



体感！釧路湿原～理科と社会の視点から

『釧路川 源流から水の路をたどる』

詳細をダウンロード >> PDFファイル

- ◆ 釧路川源流部の確認、調査(林道終点より尾札部川上流の滝まで往復)
- ◆ 釧路川上流域～下流域における簡易調査(水質、水温、透明度、河畔の状況等)
- ◆ 湿原域でのカヌーによる川の観察、調査(スガワラ～糖路湖)



- >> 参加者 釧路市、標茶町内の小学校・中学校教員5名、北海道教育大学釧路校 教員1名
- >> 講師 新庄 久志 氏(釧路国際ウェットランドセンター主任技術委員)
- >> 内容 7:00 釧路地方合同庁舎駐車場集合。
7:45 糖路湖エコミュージアムセンターにて参加者1名乗車車内にてオリエンテーション、自己紹介
9:26 尾札部川林道行き止まり到着。徒歩にて上流の滝往復
11:15 駐車場所帰着後、水温、PH、CDO等パックテスト等実施
11:56 眺湖橋にて、水温等調査実施
12:20 道の駅摩周温泉にて昼食休憩
13:00 摩周大橋にて、水温等調査実施
14:26 スガワラにて、水温等調査後、糖路湖に向けカヌーにて川下り
16:00 糖路湖到着。河口に向け移動
16:40 新釧路川(釧路市昭和 新釧路川右岸)にて水温等調査実施
17:05 釧路地方合同庁舎にてふりかえり後、解散

■調査調査を行った場所

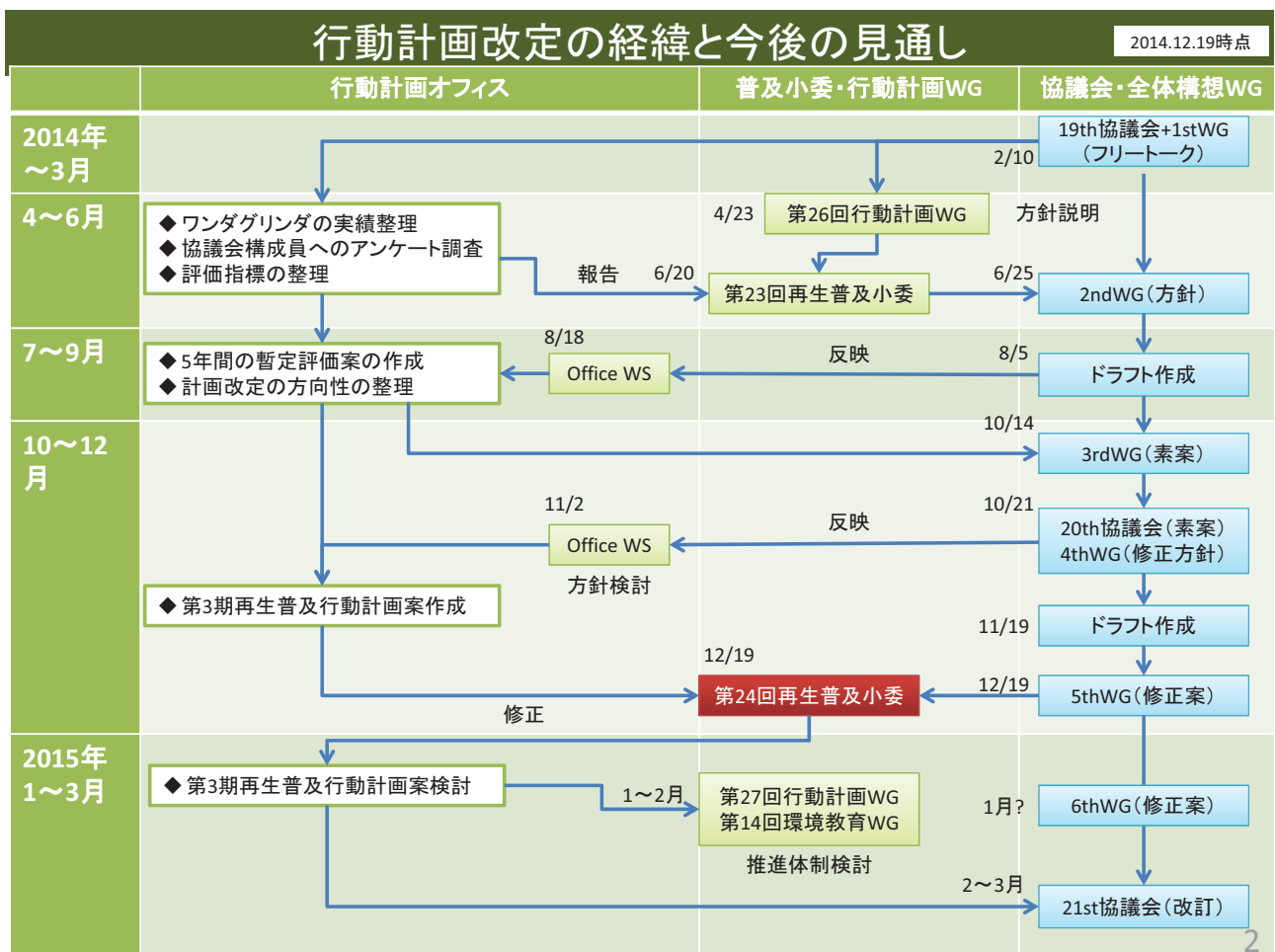


釧路湿原自然再生普及行動計画改訂案の ポイントと新たな推進体制等について(案)



2014年12月19日 再生普及小委員会事務局

1



2

行動改訂の背景

1 「全体構想」見直しの要請

- 自然再生の必要性や実施状況の地域との共有が不十分
- 地域との連携や貢献を強化する必要性
- ⇒ 全体構想の「原則」の記述を強化するとともに、「普及」関連部分の記述を「地域産業への貢献」と分けて拡充する。

2 第2期行動計画の成果と課題(6月20日第23回普及小委)

- ワンダグリンダの多様性と定着、「参加・行動」の促進、ガイドマップ作成等の手応え
- 参加の意義の明確化、参加機会・対象者の拡充、戦略的な周知・普及活動の必要性
- ⇒ 第2期計画を継承しつつ、推進体制等を強化していく。

3

行動計画の骨格

	第2期計画	第3期計画
目的	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 具体的な行動、取組む人を支援する。 ➢ 第1期計画で広げてきた釧路湿原への「関心」や「学び」をさらに広げ、「参加」、「行動」につなげ、「深める」。 ➢ 長期的に、湿原と人々のつながりをつくり、流域の社会・経済の発展に貢献していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 湿原のことを利害関係者に伝え、学びや参加の場を創り出し、ワイズユースに向けて行動する人を増やし、そうした取り組みを支援する。 ➢ 第2期計画を継承しつつ、湿原を活用した環境教育や自然再生への参加が地域に根付いていくことが目標。
性格	<ul style="list-style-type: none"> ➢ (再生事業実施者や事務局だけではなく)協議会としての計画。 ➢ 自然再生全体を環境教育や市民参加のもとに進めて行くための横断的な指針であり、実施計画に準じる役割をもつ。 ➢ 「できる者」が「できること」からを原則に、目指す方向を示す。 ➢ 「ワンダグリンダ・プロジェクト」を通して誰でも参加できる。 	
期間	➢ 2010～2014年度(5年間)	➢ 2015～2019年度(5年間)
推進体制	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 行動計画ワーキンググループ ➢ ワンダグリンダ・プロジェクト(毎年) 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 再生普及小委員会で進行管理 ➢ ワンダグリンダ・プロジェクト(継続)
重点事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 釧路湿原を知る、楽しむ、学ぶ ② 自然再生に参加する、行動する ③ 地域と関わり、人をつなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ① 湿原にふれる、楽しむ ② 湿原で学ぶ、湿原を学ぶ ③ 湿原のために行動する ④ 湿原と地域をつなぐ

4

ワンダグリンダ・プロジェクトの一部変更

コンセプトの明確化

毎年度の具体的な取組み



「釧路湿原の応援団」に拡大

- 自然再生や環境教育の実践から、寄付、協議会の活動サポートまで、釧路湿原の自然再生やワイズユースの推進に直接間接に応援する活動(=「応援団」)として、より幅広く参加を呼びかけていく。(「ワンダグリンダ・サポーターも統合する」)

登録・報告事務の簡素化

毎年登録、毎年事業報告



登録は1回、毎年簡略に報告

- 登録は随時受け付け、行動計画の期間中有効とし、毎年継続の意思確認を行う。
- 登録団体は、毎年度、行事開催実績や参加者数等を事務局に報告する。

報告書作成の簡略化

毎年報告書印刷・配付

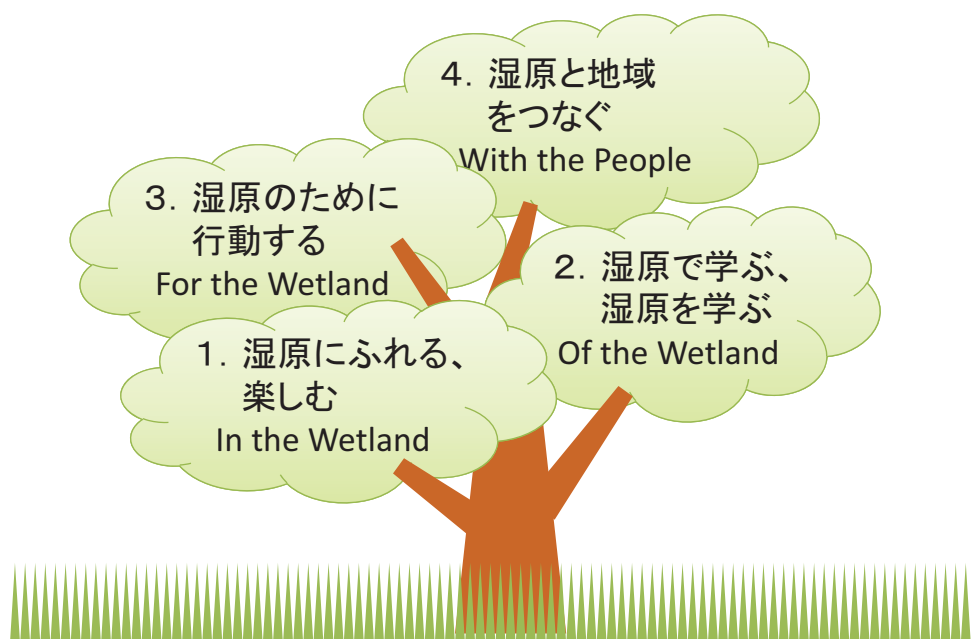


毎年簡易な報告+5年間の報告書

- 毎年度の状況は次年度当初に数ページ程度の簡易なニュースレターとして作成する。
- 報告書は計画期間の終了時に作成する。

5

4つの重点分野



6

進行管理と推進体制

小委主体の推進体制

行動計画ワーキンググループ



再生普及小委員会

- 行動計画は、再生普及小委員会が推進主体となって進行管理する。
- 現在の行動計画ワーキンググループは一旦終了し、改めて小委員会間連携等のための作業チームとして、次ページのように再構成する。

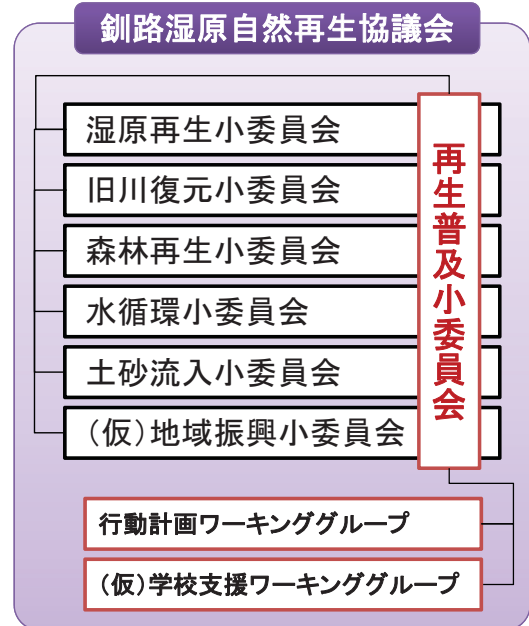
再生普及小委員会の役割

普及小委としての普及活動



自然再生全体の普及活動

- 他小委から独立した活動ではなく、他小委や個別実施計画等、自然再生事業全体を見渡して活動する。
- 自ら先導的に事業を実施することはあるが、基本的には事業実施者や協議会構成員の活動を促進していく役割。
- 「普及」の横串を小委員会間連携により確保する。



7

行動計画ワーキンググループの体制変更(案)

	第2期行動計画	第3期行動計画
役割	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 行動計画の推進主体（行動計画の作成、改訂、進捗把握と進行管理、その他必要な検討を行う） 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 行動計画の推進主体である<u>再生普及小委員会の幹事会兼作業部会</u>として、自然再生の普及や小委員会間連携に関する企画立案、調整等を担う。 ➢ 環境教育に関しては、主として<u>社会教育</u>の振興を担う。
構成	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 再生普及小委員会構成員のうち希望者 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>再生普及小委員会委員長・副委員長</u> ➢ <u>各小委事務局</u> ➢ <u>開催議題の関係者及び希望者（メンバーを固定せず、協議会内にその都度案内）</u>
開催頻度	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 年2回程度（ワンダグリンダの進行管理にあわせて概ね4月と11月に）開催 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 年2回程度（4～5月に前年度状況+当年度の方針検討、11～12月に当年度の進捗+次年度方針検討）を想定 ➢ その他、必要に応じて招集する
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 環境省釧路自然環境事務局 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 環境省釧路自然環境事務所（日常的には、再生普及行動計画オフィス）

※ 現在の行動計画WGIは、第2期計画までに基本的な役割を果たしてきており、次回で一旦解散し、2015年度に新たに設置する。

8

環境教育WG→(仮)学校支援WGへの変更(案)

	(現行)環境教育WG	(仮)学校支援WG
役割	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 流域の学校での環境教育における湿原の活用に向けた、情報収集、方針検討、活動支援等。 ➤ 現在は教科学習における湿原の活用に向けて、教材作成や教員研修等を実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 主として<u>流域の学校教育における湿原の活用</u>に向けて、 <ol style="list-style-type: none"> ① 先導的な授業実践や教材作成 ② 教員への研修機会の提供 ③ 学校と国立公園利用施設、社会教育施設、地域のNPOや事業者、専門家等との連携支援等を進める<u>プロジェクト実行委員会的な役割</u>を担う。
構成	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 再生普及小委員会構成員のうち希望者 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 上記<u>プロジェクトの当事者</u>(環境教育分野の有識者、実践校、教委等の学校教育関係者、協力団体・機関等)で実務的に構成
開催頻度	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 年1～2回程度 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 年2回程度を想定し、必要に応じて少人数の打合せ等を併用する
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 環境省釧路自然環境事務所 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 環境省釧路自然環境事務所(日常的には、再生普及行動計画オフィス)

※ 現在の環境教育WGは、次回で終了し、2015年度に新体制を構築する。

9

寄付金の基金化と活用について

経緯

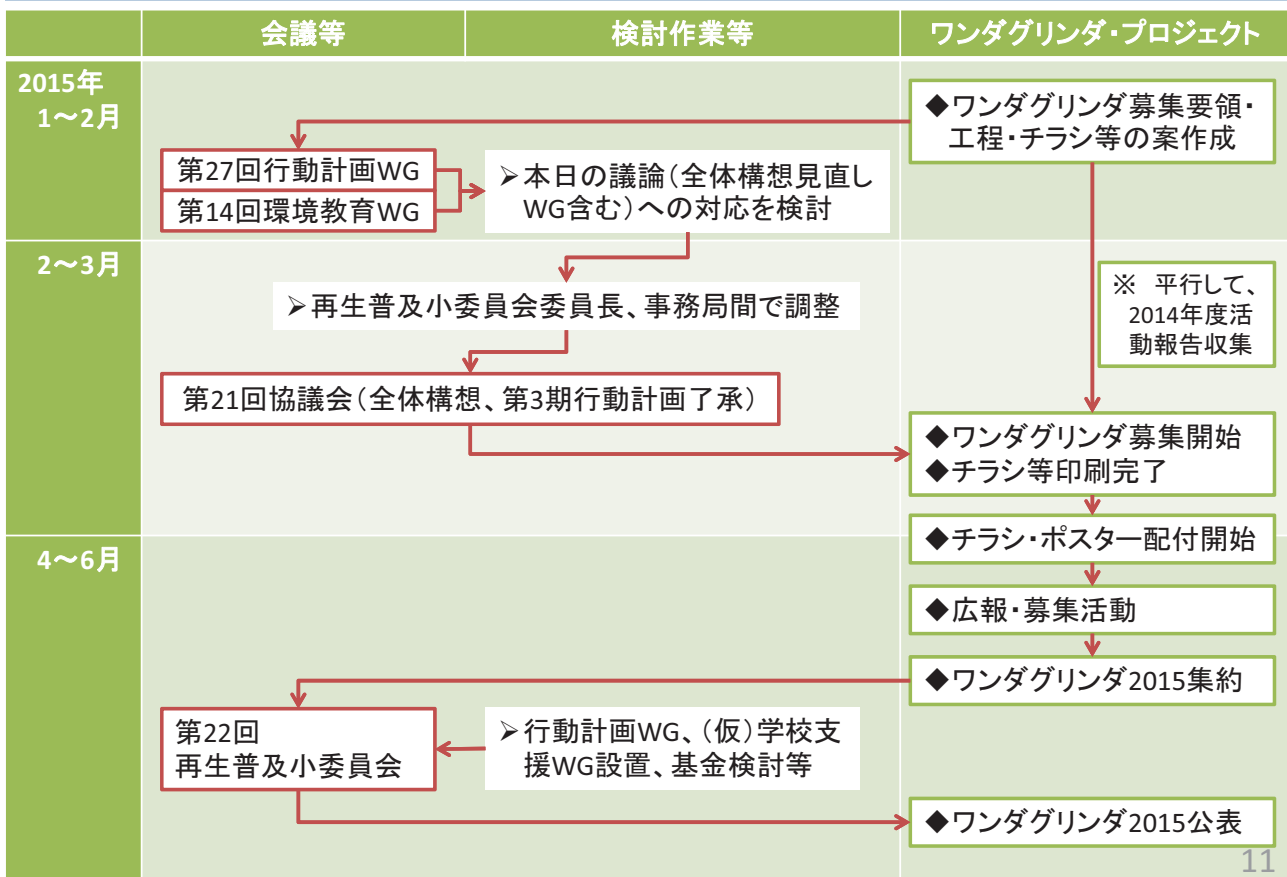
- 協議会発足当初から寄付金を受入れ、2014年11月現在、残高812,097円。
- 第18回協議会(2013年2月19日)で基金化し、規程を整備した。
- 第19回(2013年6月27日)及び第20回(同12月6日)再生普及小委員会で活用策を検討し、民間による自然再生活動への助成、学校の湿原訪問への助成、自然再生に資する調査研究への奨学金等が提案されたが、管理事務及び寄付営業活動の負担が課題としてあげられた。
- その後全体構想の見直しにともない、一旦検討を休止している。

今後に向けて

- 基金の活用対象、運用方針(募集事務、審査体制、成果の還元等)、事務局体制について、あらためて2015年度から行動計画ワーキンググループで検討し、再生普及小委員会から協議会に提案する。

10

当面の想定スケジュール



第3期釧路湿原自然再生普及行動計画(案)

はじめに

(※会長のことば)

1 背景と経緯

- 釧路湿原では、2003年11月に自然再生推進法に基づく「釧路湿原自然再生協議会」(以下、「協議会」という)が設立され、同法に基づく「釧路湿原自然再生全体構想」(2005年3月策定、以下、「全体構想」という)及び地区毎の自然再生事業実施計画(以下、「実施計画」という)により具体的な事業が進められ、いくつかの成果をあげてきました。
- 自然再生は、目標達成に数十年という時間を要すること、流域全体を視野に自然の持つ自己回復力を引き出しながら進めていくこと、モニタリングと評価に基づき事業を見直しながら進めることなど、かつての環境政策や公共事業にはない特徴を持ちます。その推進のためには、地域の理解や参画を広げていくことが不可欠であり、これを支える環境教育や市民参加¹の仕組みづくりを必要とします。
- このため、全体構想では、自然再生を実施するうえでの原則として「多様な主体の参加の原則」、「情報共有の原則」、「環境教育の推進」などを明記し、目標達成のための主要な施策のひとつとして「自然再生の普及と環境教育・市民参加の促進」を位置づけ、個々の実施計画に横断的に関わる事項として取り組むこととしています。
- 協議会では、自然再生推進法の趣旨と全体構想を受けて、2005年から釧路湿原の自然再生にかかる環境教育や市民参加を推進するための5年計画である「釧路湿原自然再生普及行動計画」(以下、「行動計画」という)を作成し、実施してきましたが、第2期行動計画(2010～14年度)が終期を迎えるにあたり、新たな全体構想の推進に向けて第3期の行動計画を策定することとなりました。
- 本行動計画は、湿原の価値が流域に浸透し、自然再生が地域づくりの一環として取り組まれる状況を目指し、環境教育や市民参加の一層の普及、拡大に向けた当面の目標と方策を示すものです。

¹ 本計画では、「市民」とは、「市内に住む人」という意味ではなく、広く地域社会を構成する住民、国民の意味で用います。

表 第3期行動計画策定までの経緯

1999年9月 ～2001年3月	「釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会」設置。「釧路湿原の河川環境保全に関する提言」をとりまとめ、市民参加及び環境教育の推進を明示。
2002年9月 ～2003年6月	「釧路湿原の自然再生に係る市民参加・環境教育等の推進方策調査懇談会」設置。「市民参加・環境教育の推進に関する10の提言」をとりまとめ
2003年11月	「釧路湿原自然再生協議会」設立、「再生普及小委員会」設置。
2004年7月	同小委員会に「再生普及行動計画ワーキンググループ」設置。
2005年3月	「釧路湿原自然再生全体構想」策定。
2005年6月	上記「10の提言」の具体化に向けた5カ年計画として「釧路湿原自然再生普及行動計画」を作成し、2006年度からは公募で決まった「ワンダグリンド・プロジェクト」の愛称で活動。
2010年1月	「第2期釧路湿原自然再生普及行動計画」策定。
2015年3月 (※予定)	「釧路湿原自然再生全体構想」見直し及び「第3期釧路湿原自然再生普及行動計画」策定。

2 行動計画とは何か

2-1 行動計画の目的

- この行動計画は、自然再生推進法の趣旨と全体構想を踏まえ、釧路湿原の自然再生²を、地域、市民の理解、支持、協力、参画のもとに効果的に進めていくための**協議会としての取組方針**をまとめたものです。
- 自然再生の事業実施者だけではなく、広く協議会の構成メンバーが得意分野を活かし、釧路湿原のことや自然再生について流域の人々や利害関係者に伝え、学びや参加の場を創り出し、湿原のワイズユース（賢明な利用）に向けて行動する人を増やして行くこと、そうした取組を支援して行くことを**目的**とします。
- これまで、第1期及び第2期の行動計画をとおして、「釧路湿原を知る、楽しむ、学ぶ」活動が多種多様に展開し、「自然再生に参加する、行動する」場や機会が少しずつ広がり、さらに「地域と関わり、人をつなぐ」活動も動き出しています。第3期行動計画では、引き続きこれらの活動を進めるとともに、全体構想に基づき、湿原の価値をより多くの人に伝え、湿原と人々のつながりをさらに広げ、湿原を活用した環境教育や自然再生への参加が地域に根付いていくことを**目標**とします。

2-2 行動計画の性格

- この行動計画は、自然再生推進法に基づく実施計画ではありませんが、全体構想に基づく各実施計画をはじめとする釧路湿原の自然再生全体を環境教育や市民参加のもとに進めて行くための横断的な指針として、実施計画に準じる重要な**役割**を担います。
- 自然再生実施者や事務局だけではなく協議会としての計画であり、釧路湿原の自然再生の推進に向けて「できる者」が「できること」から取り組むことを**原則**に、目指すべき方向をまとめたものです。
- 行動計画は、これを進めるために実施される「ワンダグリンダ・プロジェクト」（2-4参照）をとおして、協議会内外を問わず**誰でも参加**することができます。

² 全体構想では、「自然再生」を広くとらえ、自然の保全・回復・復元・修復・維持管理・創出などを含むものとして定義しています。この行動計画でも、保全（今残されている良好な自然を良好な状態で維持すること）等を含めた意味で用います。

2-3 計画期間と推進体制

- 第3期行動計画の**対象期間**は、2015～2019年度とします。行動計画は、全体構想の各施策の点検・見直し等にあわせて概ね5年ごとに評価し、見直すこととします。
- 行動計画の再生普及小委員会が**推進主体**となって進めます。ただし、協議会全体に横断的に関わるテーマを扱うため、他の小委員会との密接な連携のもとに活動します。また、課題解決や個別プロジェクトのために個別の推進体制を必要とする場合には、**ワーキンググループ等を設置**して取り組みます。
- 行動計画の**事務局**は環境省釧路自然環境事務所におき、日常的には環境省釧路湿原野生生物保護センターを**拠点**に、通称「再生普及行動計画オフィス」（以下、「オフィス」という）として活動します。

2-4 ワンダグリンド・プロジェクト

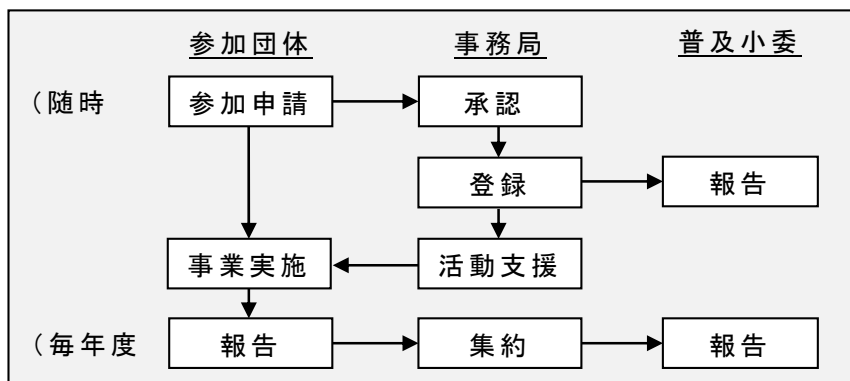
- 「ワンダグリンド・プロジェクト」³は、地域と自然再生をつなぐ「**釧路湿原の応援団**」です。釧路湿原の自然再生やワイズユース（賢明な利用）に貢献する取組であれば、流域の内外、手法を問わず、市民、企業、学校、行政、専門家等どのような立場からでも参加することができます。



- ワンダグリンド・プロジェクトへの**参加希望者**は、事務局に活動予定等を**申請**し、その**承認**を経て参加を**登録**します。事務局は、再生普及小委員会に**登録状況を報告**し、参加取組に対して情報提供や広報協力を行うとともに、必要に応じて事業協力や助言等の**支援**を行います。

³ 「ワンダグリンド・プロジェクト」とは、「Wonder」（すばらしい）、「One」（ひとつの）、「Greenだ!」をあわせた造語です。第1期行動計画を開始した2005年に参加者から公募し、採択されました。

- 参加取組の実施者は、毎年度事務局に**実施状況を報告**し、事務局はそれを取りまとめ、報告、公表します。



- 協議会は、「ワンダグリンダ・プロジェクト」として、次ページ以降の**4つの取組分野**（「**湿原に触れる、楽しむ**」等）**にあてはまる具体的な取組**みを随時募集し、とりまとめ、情報発信していきます。

3 具体的な取組分野

3-1 湿原に触れる、楽しむ

協議会は、これまで流域のさまざまな場で実践されてきた、**人々が湿原に触れる機会づくり、湿原と人の暮らしや地域の産業・文化に接する場づくりを継続して支援**し、湿原を知る人、湿原を楽しむ人を増やし、関心を広げて行きます。

① 人々と湿原の接点の拡大

人々が釧路湿原に接する機会や、その魅力を知り、関心を持つきっかけづくりを、「ワンドグリンダ・プロジェクト」等をとおしてさまざまな形で実践し、湿原への来訪者を増やしていきます。

② 湿原の「今」を伝える

釧路湿原の魅力とともに、その多面的な機能（社会・経済的価値）、環境変化と現在の状態、自然再生の必要性等について、流域の多くの人々に発信し、湿原への理解を普及していきます。

③ 自然再生の「今」を伝える

各小委員会と再生普及小委員会が連携し、自然再生の具体的な実施状況について、インターネット等により効率的に情報発信するとともに、地域との対話や現場見学等の機会等を創り出していきます。

3-2 湿原で学ぶ、湿原を学ぶ

協議会は、流域の学校や地域のさまざまな立場の人々が取り組む、**湿原を活用した環境教育や湿原を学びの場づくり等を支援**していきます。

① 学校教育における湿原の活用の支援

学校や教育委員会への継続的な情報提供、教材作成、モデル授業、学外との連携のコーディネート等を専門家や関係機関との協働により実施し、学校教育での湿原の活用を支援する仕組みを強化します。

② 湿原に関わる社会教育の促進

「ワンダグリンダ・プロジェクト」等をとおして、地域の NPO、企業、学校、社会教育施設、大学等、さまざまな立場で、湿原と地域をつなぐ多様な学びの場づくりを進めていきます。また、そのための連携構築等を支援していきます。

③ 自然再生の環境教育での活用

各小委員会と再生普及小委員会が連携し、実施計画ごとに自然再生の環境教育の場、題材として活用方策を検討、実践し、定着を図ります。

3-3 湿原のために行動する

協議会は、第2期行動計画に引き続き、湿原に関心を持つ人々がさまざまな方法で自然再生に参加、協力、行動、貢献する機会や場づくりに取り組みます。また、自然再生につながる地域のさまざまな取り組みを応援します。

① 地域で取り組む参加、行動の支援

「ワンダグリンダ・プロジェクト」等をとおして、地域のさまざまな立場で取り組む自然再生を支援していきます。また、自然再生への貢献が認識されていない優れた取組の周知、連携や、来訪者への環境や景観への配慮の働きかけ等も進めていきます。

② 地域による継続的なモニタリング

地域の人々が専門家と評価を共有しながら継続的にモニタリングしていく機会を設け、定着を図ります。また、小委員会ごとに地域や市民の参加機会を検討し、可能なものから実施していきます。

③ 間接的な支援の拡大

寄付金の管理運営体制を確立し、受け入れと活用の双方を拡大し、自然再生への間接的な支援を拡大していきます。

④ 協議会の活性化

これらを通して、地域・市民が自然再生に参加・行動する意義やさまざまな手法を普及するとともに、協議会への新たな参画、活発な意見交換、活動のサポート等と引き出し、協議会自体を活性化していきます。

3-4 湿原と地域をつなぐ

協議会は、地域が将来にわたって湿原の恵みとともに暮らしていけるよう、**湿原のワイズユース（賢明な利用）を提案**し、地域の暮らしや産業との関わりを深め、**自然再生による地域づくりへの貢献を目指**します。

① 地域産業との連携

自然再生と農林漁業や観光等地域の産業との相互貢献の実現に向けて、それらの担い手や関係者との対話を進め、具体的な連携方策を検討し、可能なことから実践していきます。また、そうした動きについての情報を広く発信していきます。

② ワイズユースの雰囲気づくり

地域産業への湿原の活用にあたっては、その保全による持続的な利用に向けて、必要に応じてガイドライン等を提案していきます。また、来訪者や滞在者に対して、施設や行事等さまざまな場面で自然再生の取組、環境配慮の必要性や有効性、ルール等を伝え、地域を挙げたワイズユースの雰囲気づくりを働きかけていきます。

③ 釧路ならではのネットワーク

自然再生やワイズユースに取り組む人、地域づくりや地場産業の担い手、関係団体や拠点となる施設、地域内外の専門家等を、さまざまな機会を通してつなぎ、関係を深めながら、自然再生と地域づくりのネットワークを継承、拡大していきます。

<参考資料> 釧路湿原自然再生協議会構成図（2015年3月現在）

